

令和4年度 磐田市立磐田西学校 学校評価書

重点目標	評価指標	割合	評価	考察・改善策
学び ○ 聴き合い・学び合う子どもを育てる。 ○ 自分のために自分で学び、課題を一心に追究する子どもを育てる。	① 授業で学習している内容がわかるか。	91	A	○ ①や④の結果から、教師と児童が信頼関係のもとで毎日の授業を積み重ねられていることが分かる。 ※ ③の結果から、児童の主体性に課題があることが分かる。来年度は学びづくり部の目指す児童像を「主体的に考え、学び合う子」とする。節目ごとに教師と児童が目標を共有したり、できるようになったことを振り返ったりしていくことで、目指す姿に近づけていきたい。 ※ ⑤と⑥の項目について、専科教員の変更がないにもかかわらず、特に⑤については大きくポイントを落とす結果となった。その原因が何なのかを深く考え、改善にあたりたい。 ○ ⑦の項目については、GIGAスクール構想のスタートから2年で、児童はまさに「文房具のように端末を活用する」ことができるようになってきていることが分かる。
	② 先生や友だちの話を目と耳と心で聴いているか。	90	A	
	③ 進んで先生に聞いたり、自分で調べたりして学習しているか。	78	C	
	④ 先生は分かりやすく教えてくれているか。	95	A	
	⑤ 外国語の授業で、楽しく学んでいるか。	80	B	
	⑥ 外国語の授業で質問をしたり、答えたりすることができるか。	71	C	
	⑦ 端末などを使って自分の考えをまとめたり分かりやすく相手に伝えることができているか。	90	A	
心 ○ 約束を守り、当たり前なのが丁寧にできる子どもを育てる。 ○ 温かい言葉の交流ができる子どもを育てる。	⑧ 楽しく学校に通っているか。	92	A	○ どの項目においても、昨年度と大きく変わらない結果が得られた。昨年に引き続き、一向にコロナウイルス感染症の収束が見えない中でも、多くの子が楽しく学校生活を送ることができた。今後も、児童があかるく元気よく生活できる環境を整えていきたい。 ※ 学府の交流の中で他校の職員から称揚されたあいさつなど、昨年と比べて改善している内容もあるものの肯定的な割合自体はあまり変化が見られない。児童の成長やよさを認め、積極的に伝えていくことで、自己肯定感や自己有用感を高めていきたい。
	⑨ 相手の気持ちを考えた、あたたかな言葉遣いをしているか。	86	B	
	⑩ 靴を整とんしたり、時刻を守って生活しているか。	87	B	
	⑪ 進んで気持ちのよいあいさつをしているか。	87	B	
	⑫ 学級（学校）には、互いにルールを守り、協力する雰囲気があるか。	88	B	
体 ○ 安心できる空間づくりをする。 ○ 基本的な生活習慣の確立と自分から行動する力を身に付ける。	⑬ 学校に相談できる人がいるか。	89	B	○ ⑬の結果から、学校の中で児童が自分の居場所を実感しながら生活できていることが分かる。児童の実態が多様になってきているが、一人ひとりを大切に、思いに寄りそった指導とともに、安心できる学級づくりを目指すことで、安心安全な学校を目指したい。
	⑭ 早寝、早起きができ、朝ごはんを食べているか。	86	B	
学校関係者評価委員から				学校関係者評価を受けてのまとめ
○ 先生方が細やかな指導、やる気を引き出す指導をしてきている。できないことにも挑戦してみよう、やってみようと思えるような子供を育ててほしい。 ○ 付いている力を子供たち自身が感じられたり、自分自身の目で見えるような形にしてあげたりすることで達成感や自己肯定感につながるのではないかな。 ○ あいさつについては、子供たちの表れに差があるように感じる。しっかりとあいさつをできる子もいるが、恥ずかしさを感じている子も多いように感じる。 ○ 1人1台端末については、子供たちの様子から自在に扱うことができるようになってきていることが伝わってくる。教育活動の中で活用して行ってほしい。				○ 学校の教育活動に対して、御理解いただくとともに、コロナ禍の中でも教職員と児童が信頼関係を築きながら教育活動を進めていることを認めていただき、励みになった。 ○ 肯定的な割合が90%以上だからと安心するのではなく、残りの10%に目を向け、一人一人に寄り添った教育活動を行ってほしい。 ○ 家庭や地域への情報発信を通して、教育活動への理解や協力を得られるようにしたい。